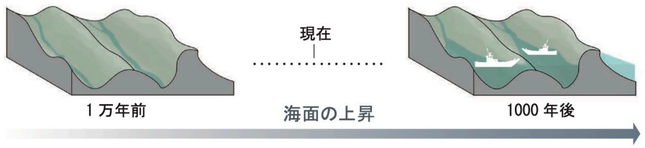
時の満ち引き

波の音を感じるトンネル
どこか切ない沈んだ漁港
浜辺に咲く色鮮やかなハマナス

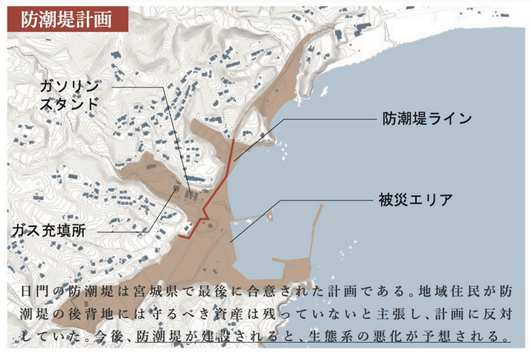
1000 年後、海に沈んだ風景と蘇った風景によって
この地は記憶を継承する場となる。

1. 海に帰る三陸の山脈

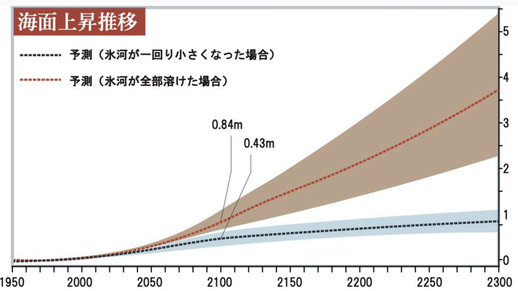
三陸の海岸は、長い年月をかけ、海に帰っているのではないか。
約一万年前、氷河期が終わり、削った谷が海に沈むことによって「リアス式海岸」が形成された。以降、三陸の複雑で豊かな土地には、人々が定住し、現在まで支え合いながら共存してきた。しかし、近年多発する自然災害によって、海岸の姿は変貌し海・山・人の関係性は失われつつある。
再び起こる海面上昇を前に、1000年後を見据え、自然な形で土地を海に返し海・山・人の関係性を維持することが、この地の記憶を継承することに繋がると考える。



3. 日門の現状と未来



日門の防潮堤は宮城県で最後に合意された計画である。地域住民が防潮堤の後背地には守るべき資産は残っていないと主張し、計画に反対していた。今後、防潮堤が建設されると、生態系の悪化が予想される。



地球温暖化により、将来的に海面の上昇が予測されている。そのため、海抜３ｍ前後は1000年後海に沈むと予想される。

2. 周辺地域の中心的な町「日門」

周辺地域の住民に親しまれた浜辺

周辺地域の産物の積み出しを行う港としての記憶

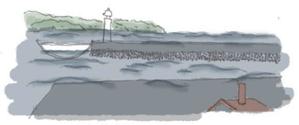
日門は大谷海岸のすぐ西側に位置し、漁港や浜辺、田畑、居久根（屋敷林）、河川など周辺の伝統的な景観が集中している地域である。かつては周辺地域の中心的な役割を担っていて、特に浜辺や漁港は地元の人々の思い出に残る場所であった。

4. 沈む風景と蘇る風景のデザイン

沈む風景

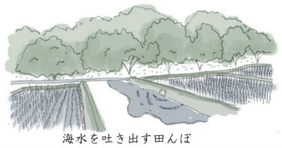
1000年の時を経て、ゆっくりと人工物が海に沈むことで祈りの空間を構成する。そのどこか悲しい姿は、訪れた人々に過去の出来事を思い起させる風景となる。

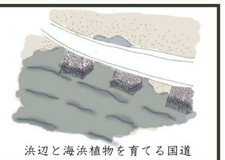
波に揺れる線路跡

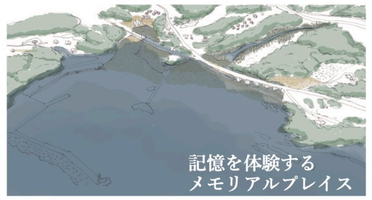

海に沈むかつての漁港

蘇る風景

津波やその後の復興政策により失われた風景が再び育つことでも本吉らしい景観を構成する。また海を受け入れる仕組みを持たせることで、持続可能な風景として未来へ繋ぐ。


海水を吐き出す田んぼ

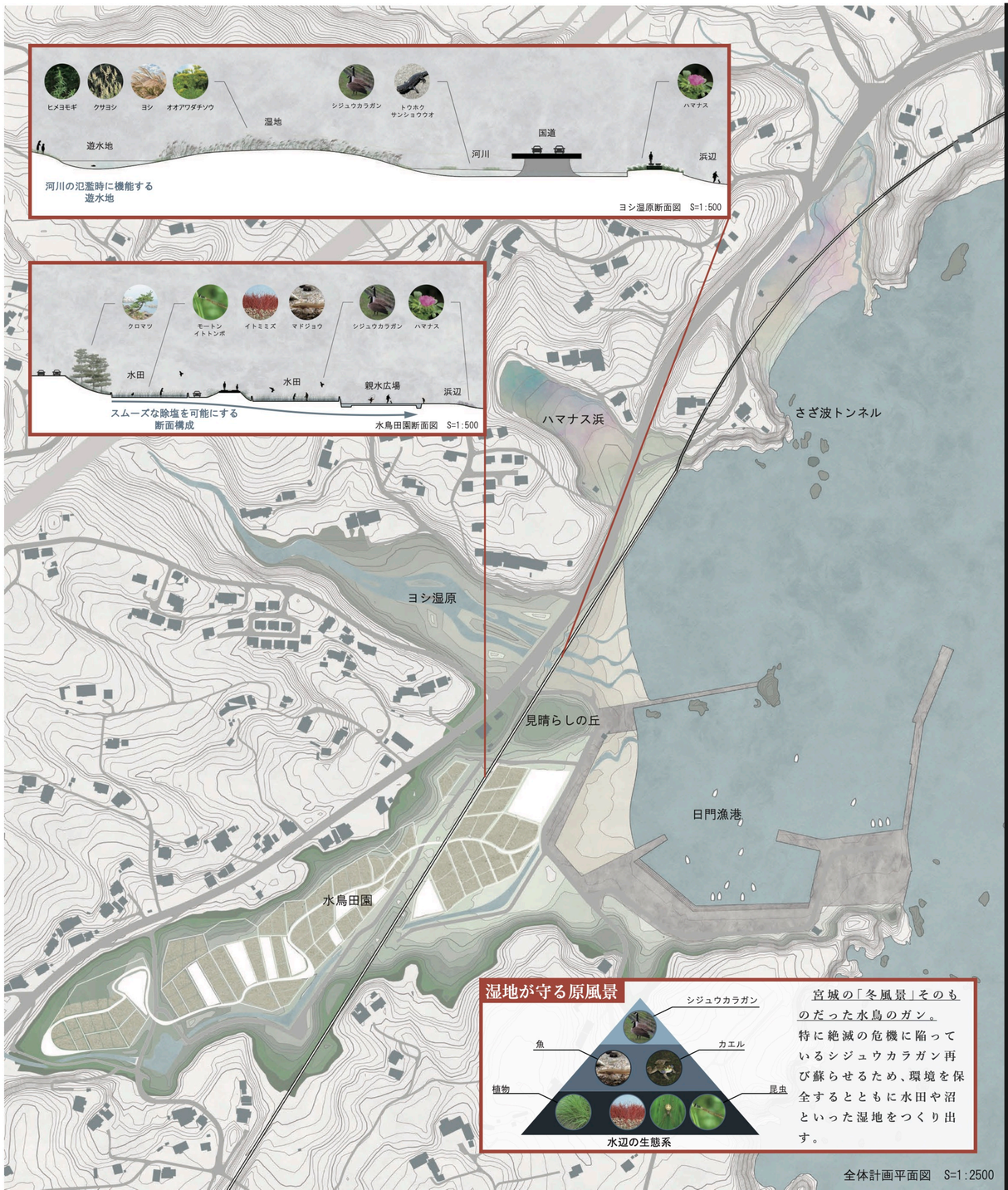

浜辺と海浜植物を育てる国道



2021 → 3021

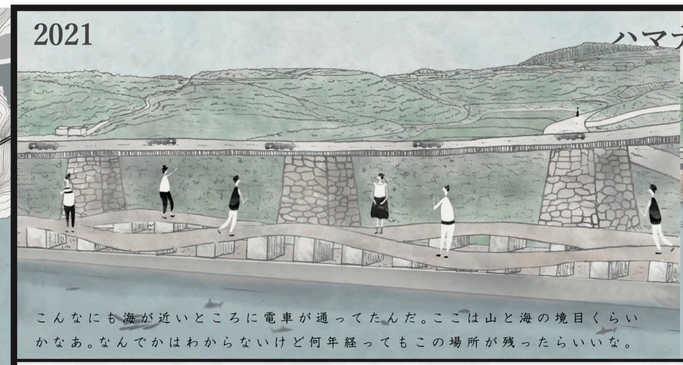
現代の廃線跡地は、本吉の原風景を横断的に体験することが出来るパブリックスペースとして地域住民に利用されながら、日門の生態系を守り未来へと繋いでいく。

1000年後には、デザインがそぎ落とされ海に浸かることで、過去の記憶を継承するメモリアルプレイスとなる。人工物が海に浸かった風景は1000年間の災害を想起させる。



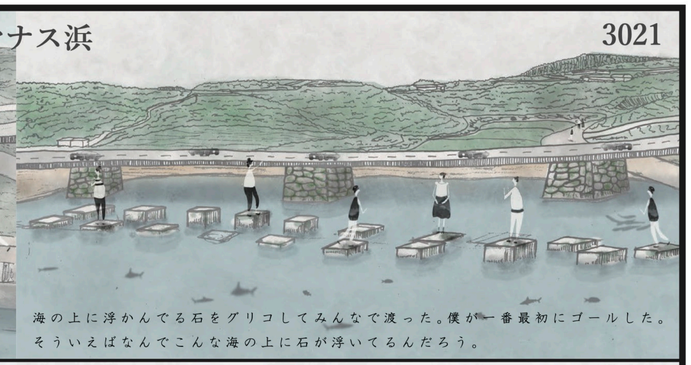
ハマナス浜

2021



こんなにも海が近いところに電車が通ってたんだ。ここは山と海の境目くらいかなあ。なんでかはわからないけど何年経ってもこの場所が残ったらいいな。

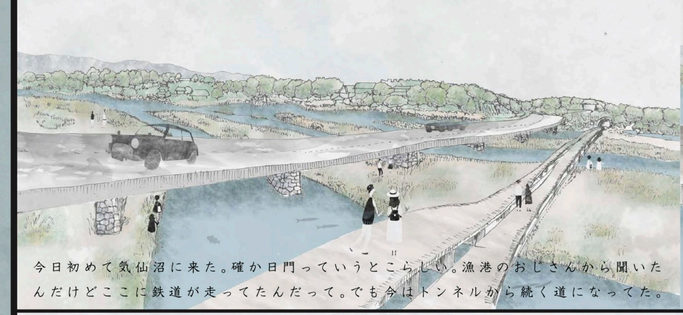
3021



海の上に浮かんでる石をグリコしてみんなで渡った。僕が一番最初にゴールした。そういえばなんでこんな海の上に石が浮いてるんだろう。

ヨシ湿原

2021



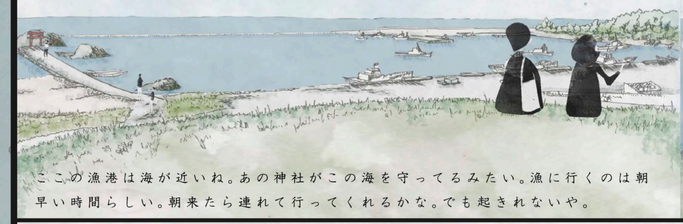
今日初めて気仙沼に来た。確か日門っていうとこらしい。漁港のおじさんから聞いたんだけどここに鉄道が走ってたんだって。でも今はトンネルから続く道になってた。

3021

うわあ、まるで海を歩いてるみたい。向こうに見えるトンネルまで行ってみようかな。でもなんでこんな道続いてるのかな。明日先生に聞いてみよう。

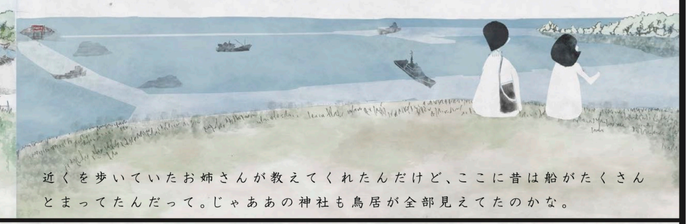
見晴らしの丘

2021



ここの漁港は海が近いね。あの神社がこの海を守ってるみたい。漁に行くのは朝早い時間らしい。朝来たら連れて行ってくれるかな。でも起きれないや。

3021



近くを歩いていたお姉さんが教えてくれたんだけど、ここに昔は船がたくさんとまってたんだって。じゃああの神社も鳥居が全部見えてたのかな。

水鳥田園

2021

今日初めてトンボの赤ちゃんを見た。図鑑で見たのより大きかった。なんで田んぼがこんな形してるのかなって思った。何か理由があるのかな。

3021

ここは昔道だったのかな。まるで海に田んぼが沈んでるみたいだった。この場所に来たら昔この場所がどんなところだったのか知りたくなった。